国語

令和八年度入学試験問題

受験上の注意

一、監督の指示により、解答用紙に受験番号（算用数字）、氏名、フリガナを記入し、受験番号および該当する試験日をマークしてください。記入については解答用紙の注意事項に従ってください。

二、問題冊子と解答用紙の解答番号を間違えないように注意してください。

三、国語の問題は、選択問題があるので、下記の【表】の指示に従い解答してください。

四、国語の問題は、二～三十八ページにあります。試験開始の合図があったら、まずページ数を確認してください。

五、試験時間中は、受験票を机上の受験番号の下に呈示しておいてください。

六、質問、その他用件があるときは、手を挙げて合図してください。

七、試験時間中の退室は認めません。

八、試験時間は六十分です。

九、この問題冊子は持ち帰ってください。

開始の合図があるまで開かないでください

【表】下記の印に従い解答してください。

○印・・・必答 △印・・・いずれか一つを解答してください ×印・・・解答してはいけません		一（現代文）	二（現代文）		三 ア（現代文）	三 イ（古文）	三 ウ（漢文）
仏教学部	共通問題	○	○	選択問題	△	△	△
文学部（史学科）（文学科　日本語日本文学専攻コース）	共通問題	○	○	選択問題	×	△	△
文学部（哲学科）（社会学科）（文学科　英語英米文学専攻コース）	共通問題	○	○	選択問題	△	△	△
経済学部	共通問題	○	○	選択問題	△	△	△
経営学部	共通問題	○	○	選択問題	△	△	△
法学部	共通問題	○	○	選択問題	△	△	△
社会福祉学部	共通問題	○	○	選択問題	△	△	△
地球環境科学部	共通問題	○	○	選択問題	△	△	△
心理学部	共通問題	○	○	選択問題	△	△	△
データサイエンス学部	共通問題	○	○	選択問題	△	△	△

国語

一　次の文章は、読書が自分をつくるという内容に続いて論じられたものである。この文章を読み、後の問に答えなさい。

読書は何のためにしなければいけないものなのか、読書をするとどんな力がつくのか。すでに述べたように、読書は自分をつくるのに力がある。それとともに強調しておきたいのは、読書をするとコミュニケーション力が格段にアップするということだ。

普通の会話をしていても、読書力のある人とない人とでは、会話の質が変わってくる。学生を相手に会話をしていると、［A］学生かそうでないかはすぐにわかる。読書をしているかどうかという質問をしなくても、コミュニケーションの質からわかるのだ。

では、読書をしているかしていないかの影響は、コミュニケーションにどのような影響を与えるのであろうか。【I】

はっきりと言えるのは、会話に脈絡があるかどうかという違いだ。中学生や高校生の友だち同士の会話を聞いていると、まったく脈絡のない話を次々にしていることがよくある。それはそれで友だち同士なので楽しい会話になっているのかもしれない。問題は、親しい友人以外と話す場合だ。脈絡のない話し方は通用しない。相手の言ったこととまったく無関係に「ていうか」という始まりで、まったく別の自分だけに関心のある話をしたならば、相手はうんざりしてきて人格さえも疑うようになる。脈絡のない話し方は、［B］がないと受け取られる。

では、脈絡のある話し方は、どのようにしてできるのか。

それは、相手の話の要点をつかみ、その要点を引き受けて自分の角度で切り返すことによってである。通常、人の話には幹(1)と枝葉がある。しっかりと相手の言っていることの［C］を押さえて、それをより伸ばすように話をするのが会話の王道だ。この［D］をつかまえる力は、読書を通じて要約力を鍛えることによって格段に向上する。

会話は空中を流れていくイメージなので、つかまえどころがない。それに対して、本は文字が固定されているので、振り返って要点を探しやすい。読書で要旨をつかまえることのできない人は、質の高い会話のやりとりは難しい。会話で要点を外さずに捉え、うまく切り返す能力は、いわばどのコースに来るかわからない球を打つようなものだ。本の場合は文字として固定されているので、

どのコースに球が来ているのかくらいはわかる。そこで要約力を鍛えることによって、ライブでの会話の要約力が向上する。

会話は、自分の話したことがきちんと相手に受け止められると思うことによって、お互いに盛り上がる。きちんと受け止めたかどうかを示すのが、相手の言っていることを自分の言葉で言い換えるというレスポンス（応答）だ。「なるほど」、「そうですね」、「たしかに」といった相槌(あいづち)だけでも、会話は(ア)ジュンカツユを注がれたように滑らかになる。

この相槌をより高度にしたものが「(2)自分の言葉で言い換える」ということだ。相手の言葉をおうむ返しにするだけでも、会話のリズムはよくなる。それをヴァージョンアップさせて、言葉を換えて同じ内容を言い換えることができれば、相手の言っている内容をしっかりと理解しつかまえていることが、相手側にもはっきりと伝わる。【Ⅱ】「同じ内容を自分の言葉で言い換えてみよ」という課題は、幼い頃から繰り返し練習する価値のあるものだ。この「言い換え力」は、コミュニケーションの中でもっとも基礎的なもののひとつだ。

自分の言葉で言い換えるためには、語彙(ごい)が豊富である必要がある。それは読書によって効率よく鍛えられるものだ。言い換えにはコツがある。抽象的なものは、具体的なものに少し直し、具体的な発言に対しては、少し抽象度の高い言い方で言い換える。

新書系の本の場合は、論旨が具体例とセットになって書かれていることが多い。一般的な言い方の文章の後に、「たとえば」というように例が挙げられる。これを二人の会話で行うということだ。一般的な発言に対しては具体例を、具体例を相手が挙げれば、それを一般化する。こうしたやりとりによって、［E］を失わない、しかも起伏のある会話ができる。

会話をしていて相手が喜ぶのは、自分のいった話がムダ(イ)に終わらずきちんと相手に届いて、しかも生かされていると感じる場合だ。それが具体的にはっきりするのは、相手の話の中に自分の言ったキーワードが入り込んでいるかどうかである。【Ⅲ】自分の発言の中でも、重要だと自分が感じていた言葉（キーワード）を相手が使ってくれれば、それだけでも会話に勢いが出てくる。

［F］この程度のことならば、読書をしなくても何とかできるかもしれない。読書経験が生きてくるのは、五分前、十分前、二十分前に話された相手の言葉を引用して会話に組み込める技においてだ。現在の文脈そのものには出てこない、［G］、すでに地下に潜ってしまった水脈を、もう一度掘り起こすのである。

その言葉を話した当人でさえも、今の時点では意識していない言葉を、もう一度舞台に上げる。すると、相手は自分の過去に話した話と現在の話とが結びつくのを感じ、自分の中に脈絡ができたことを喜ぶ。【Ⅳ】もっとも気が利いているのは、話している相手がつながっていないものをつなげてあげるということだ。こうしたことができるためには、相手の言葉をしっかりと押さえておく必要がある。この力をつけるためには、「［　H　］習慣」が必要だ。

私はちょっとした会話でも、簡単なメモを取る。図にすることもある。メモを取っておけば、相手の話の脈絡がつかみやすい。会話をクリエイティブにするには、自分の思考と相手の思考とを混ぜ合わせることが必要だ。自分の言いたいことだけ言って終わりという人をしばしば見かける。これは思考のすり合わせができていないケースだ。メモを取る習慣のある人は、自分の脈絡だけで話をしないようになる。

メモをする力も、読書を通じて鍛えられる。離れた段落に脈絡を探す練習が、メモ力を鍛える。「今読んでいることは、たしか前の方でも出てきたな」と思って探してみる。そして該当箇所があれば、そこに線を引いたり○で囲んだりする。こうすることによって、前後関係に、読者である自分が積極的に脈絡をつけることになる。あるいは、読み進めながら「あ、ここは後で大事になりそうなところだな」という感性を働かせながら、チェックをしていく。全部が当たるわけではなくとも、後でそのチェックが生きてくる。

(3) 肝心なのは、常に脈絡を考えながら読書をし、会話をするということだ。脈絡のない内容の本も世の中にないことはないが、通常本は脈絡を大事にしている。いわばストライクが常に来るバッティングセンターのようなものだ。一般の会話は、ストライクゾーンに来るとは限らない。相手の話自体に脈絡がないことも多いからだ。まったく脈絡のない話に脈絡をつけるのは、さすがに難しい。【Ⅴ】しかも本の場合は、内容は会話に比べて多く含まれているので、そこで練習をしておけば、実際の会話では要点をつかむのは一層容易になる。

本の著者は、それぞれ自分の主張やペースを持っている。そうした複数の著者と付き合うことで、聞く力が練れてくる。本によっては、非常にわがままな著者もいる。それに著者はたいてい個性的だ。様々なタイプの著者に数多く付き合うことで、いわば

人間が練れてくる。人の話をきちんと聞き続けることができるだけでも、相当社会性は高いと言える。

（齋藤孝『読書力』問題作成上、一部を改変した）

問一　傍線部分(ア)、(イ)と同じ漢字が使われているものをそれぞれ一つ選び、マークしなさい。解答番号は(ア) 1 、(イ) 2 。

(ア)　ジュンカツユ

① ジュンバンを守って列に並ぶ
② 日本は温暖シツジュン気候である
③ あの人はジュンジョウだと思う
④ 望遠鏡のショウジュンを合わせる
⑤ 条約をヒジュンする

(イ)　ムダ

① ダキすべき人格
② 交渉がダケツする
③ ダソクが多い話
④ ダベンを弄する
⑤ ダミンをむさぼる

問二 空欄Aに入る語句として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 3 。

① コミュニケーション力がある
② 自分づくりに積極的な
③ 豊かな感性をもつ
④ 本を読んでいる
⑤ 学問に関心がある

問三 空欄Bに入る語句として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 4 。

① 社会性　② 主体性　③ 積極性　④ 生産性　⑤ 自己中心性

問四 傍線部分(1)「幹と枝葉」とあるが、そのあとの空欄C～Eに入る語句の組み合わせとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 5 。

	C	D	E
①	幹	幹	幹
②	幹	幹	枝葉
③	幹	枝葉	枝葉
④	幹	枝葉	幹
⑤	枝葉	枝葉	枝葉
⑥	枝葉	枝葉	幹
⑦	枝葉	幹	幹
⑧	枝葉	幹	枝葉

問五 傍線部分(2)「自分の言葉で言い換える」とあるが、その言い換えについての説明として、**不適当なもの**を一つ選び、マークしなさい。解答番号は 6 。

① 言い換える能力はコミュニケーションの中でもっとも基礎的なもののひとつである
② 相手の言葉をおうむ返しにする段階をさらに発展させたものである
③ 「なるほど」、「そうですね」、「たしかに」といった相槌も含むものである
④ 抽象的なものは具体的に、具体的なものは抽象的に言い換えるのがコツである
⑤ 相手の話した内容をきちんと受け止めたことを示す方法のひとつである

問六 空欄F、Gに入る語句の組み合わせとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 7 。

① F つまり　G ところで
② F だから　G したがって
③ F そして　G だが
④ F たとえば　G そのうえ
⑤ F しかし　G いわば

問七 空欄Hに入る言葉として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 8 。

① 具体例を挙げる
② メモを取る
③ 抽象度を高くする
④ 相槌を打つ
⑤ 恣意的に話をつなげる

問八 傍線部分(3)「肝心なのは、常に脈絡を考えながら読書をし、会話をするということだ」とあるが、そうすると、どのような力が身につくのか。その説明として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 9 。

① 国語の試験で要点・要旨を捉える問題を効率的に解く力
② 実際に会話をする場面で要点や話の道筋を的確につかむ力
③ 自分が最も言いたいことだけを相手の目を見てしっかりと伝える力
④ 親しい友だち同士のコミュニケーションを楽しく盛り上げる力
⑤ 自分の主張やペースを持っている著者と、複雑な議論を交わす力

問九 この本文には次の一文が欠落している。本文中の【Ⅰ】～【Ⅴ】のどの箇所に補えばよいか。最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 10 。

本のようにきちんとした主張があるもので脈絡をつける練習をする方が合理的だ。

① 【Ⅰ】　② 【Ⅱ】　③ 【Ⅲ】　④ 【Ⅳ】　⑤ 【Ⅴ】

問十 本文の内容に合致するものを**二つ選び**、マークしなさい。解答番号は 11 （解答欄一行に二つマークすること）。

① 相手の話を受容して共感する姿勢は、これからの時代に求められる資質・能力である

② 読書力があるかないかということは、日常的な会話での質にその違いがよく表れる

③ 読書で多様な著者の主張や文脈を捉えるのに慣れることで、聞く力や社会性が磨かれる

④ 少し前に話された相手の言葉を引用して会話に組み込む際に、音読の経験が生きてくる

⑤ 読書での要約力を鍛えることで、豊富な語彙力を身につけることができるようになる

二　次の文章は、ちくまプリマー新書『社会は「私」をどうかたちづくるのか』の第一章の一部である。この文章を読み、後の問に答えなさい。

「私」が社会的に形づくられている、といっても、それが具体的にどういうことなのかいまいちピンとこないかもしれません。そこでこの第1章では質問紙調査のデータ、つまり数字という強力な説明の道具を使って、「私」と社会とを関係づけて捉える見方・考え方について例示していこうと思います。

この「ちくまプリマー新書」の主たる読者は若い方々だと思うので、自分にあてはめて考えてもらえるように、ここでは若者を対象とした調査のデータを使っていくことにします。以下では、筆者もその一員としてかかわっている社会学者の研究グループ「青少年研究会」が二〇一二年に行った二つの若者調査のデータを主に用いていきます。

広くいって、「私は私が思うように生きているんだ」と素朴には考えられているかもしれません。この章ではまず、そのような考え方を四つの観点から見直していきたいと思います。一つめは「時代」という観点です。主に用いる二つの若者調査のうち、都市調査は一九九二年から一〇年おきに行われているものなので、各時点の意識のあり方を比較することができます。二〇一二年までの動向については、研究会がまとめたいくつかの本にまとめられているのでそちらをみていただくとして、本書では一二年と二二年の間の変化について考えていくことにしましょう。

表は、「私」に関して思ったり感じたりしていることとしての「自己意識」に関する設問の回答傾向について、都市調査の二時点間で変化がみられた項目をまとめたものです。ここでいう「変化がみられた」というのは、統計的検定の結果、有意な差がみられたということを意味しています。もう少しかみ砕いて説明すると、表での(ア)ケイネン変化には、三%くらいしか変わっていないものから一〇%以上変わっているものまで色々とありますよね。こうした変化が誤差の範囲に過ぎないものなのか、誤差では片づけられない確かな（意味のある）差だとみるべきなのかを、調査データにもとづく計算結果から判断するのが統計的検定という手続きです。青少年研究会調査には、自己意識に関する設問が他にも多く含まれているのですが、そのうち統計的検定の結果、確かに

表　自己意識のケイネン比較（%）

項目	2012	2022
今の自分が好きだ	65.3	72.9
今のままの自分でいいと思う	51.4	63.1
自分がどんな人間かわからなくなることがある	48.9	51.7
仲のよい友だちでも私のことをわかっていない	28.0	34.0
意識して自分を使い分けている	49.4	57.4
自分の中には、うわべだけの演技をしているような部分がある	55.7	52.6
他人とは違った、自分らしさを出すことが好きだ	56.6	52.8
自分らしさを強調するより、他人と同じことをしていると安心だ	35.0	46.1

※それぞれ、項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」のいずれかを回答してもらう４件法の設問になっている。表に掲載されている数値は肯定回答率、つまり「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合算値である（無回答は集計から除外している）。肯定回答率の多い方に網掛けをしている。

差があると判断された項目を表に掲載しています。とはいえ、表に示されている差は数%の差、つまり程度差であって、こちらの方が白、あちらの方が黒といったはっきりした区分けが可能になるようなものではありません。

さて、ここからはいよいよ表の内容をみていくことにしましょう。上から順に傾向を言葉にしていくと、まず最近の若者の方がより「［　A　］」で、「［　B　］」と思うようになっています。これだけみるとよさそうな傾向だと思われるかもしれませんが、その一方で近年の方が「自分がどんな人間かわからなくなること」があり、「仲のよい友だちでも私のことをわかっていない」と思うようにもなっています。自分自身にとっても、仲のよい友だちも自分のことが分からないと思っているのに、そんな自分が好きで、そのままでいいと思っているというのは、何となく矛盾しているようにみえないでしょうか。

解釈の素材を足すために、表の下側の項目もみていきましょう。近年の方が「意識して自分を使い分け」るようになっている一方で、「うわべだけの演技をしているような部分」はなくなってきています。使い分けが当たり前のこととして、無理なくできるようになっているということなのだと思われます。また、「［　C　］」は求めず、「［　D　］」と思うようにもなっています。これらの変化について、どのような解釈が可能でしょうか。

筆者は、次のように考えると、ケイネン変化の全体を貫く解釈ができるのではないかとみています。解釈の軸として選びたいのは表の最後の二項目、他人に合わせることに関する項目です。二〇〇〇年代中頃あたりから数年ほど、「［　E　］」という言葉がよく使われた時期がありましたが、他人に合わせることについての肯定回答率が近年さらに高まっていることを考えると、そのよ

うな感覚は実態としてますます強まっているとみてよいでしょう。こうした感覚の強まりに関して考えないわけにはいかないのが、この一〇年間でほぼ「インフラ」のようになったスマートフォンやＳＮＳの定着です。一二年の時点でもスマートフォン利用者は七二・八％いましたが、二二年では実に九九・七％に達しています。ＳＮＳについても、一二年時点で七六・四％が何らかのＳＮＳを利用していましたが、二二年では九三・九％とやはり非常に高い値になっています。さらに二二年調査では「もっともよく使うＳＮＳでは、複数のアカウントを使い分けている」という質問項目を設けており、その肯定回答率は五七・二％とかなり高くなっています。(注)ＬＩＮＥの登録グループ数も平均四〇・三にものぼります。さまざまな人といつでも・どこでも、さまざまなかたちでつながりうるこのような状況において、そうした人たちの目が気になり、まわりに合わせた方がいいという感覚が強まってくるのは自然な流れだといえるでしょう。

また、(1)こうした状況は自己の使い分けを以前より加速させることにもなるでしょうが、自分の思い通りにできる細かい操作や切り分けが今日では可能になっており、負担がかかる場からの撤退も以前よりは容易になっているために、うわべだけの演技をしているという感覚が低減することになるのだと考えられます。ただ、こうした使い分けの加速は［　F　］ことになります（実際、これらの項目の回答傾向は相関しています）。ですが、全体としてまわりに合わせた方がいいという感覚が強まっているなかで、自分をうまく使い分け、(2)波風立てずにふるまうことのできている自分自身に満足して、まあそれでいいかと思っているというのが近年の若い人たちの自己意識の総体的傾向なのではないでしょうか。表でみた傾向変化は青少年研究会が行った全国大学生調査の二〇一〇年・二〇年データを比較してもおおむね同様といえるので、二〇一〇年代後半以降の日本の若者に生じた、自己意識の確かな変化といってよいように思われます。

「自分のことが好き」かどうかといったことは、一見してごく［　G　］なことがらで、社会とは何の関係もないものだと感じられるかもしれません。しかし、このように時代のなかで変わっていく側面があるのです。こうした変化の原因を考えていこうとするとき、その項目だけをみていても限界があります。他の自己意識項目の変化や、それ以外の項目との関係を合わせてみていくことで、一見［　G　］なことがらがどのように社会のなかで変化しているのかを考えていくことができるわけです。

[H]、このように調査データにもとづいて考えることそれ自体の重要性も指摘しておきたいと思います。マスメディアやインターネット上では、「最近の若者は自己肯定感が下がっている」というようなことがしばしば言われ、そうした通説がときに教育改革の根拠として持ち出されるようなことがあります。日々大学生に接していると、当人たちからそのような見方が示されることもあります。[I]、みてきたように今の自分が好きだという若者は近年むしろ増えているのが実態です。「最近の若者は自己肯定感が下がっている」というような見方は、あてはまりそうなエピソードを思いつきやすいので何となくサンドウ(イ)してしまいそうになるのですが、実態に即して考えていくことで、「私」をめぐる通念から距離をおいて冷静に考えることができるようになるのです。

（牧野智和『社会は「私」をどうかたちづくるのか』問題作成上、一部を改変した）

（注）　ＬＩＮＥの登録グループ　ＬＩＮＥ上で複数の者と同時にメッセージのやり取りができる機能

問一 傍線部分(ア)、(イ)と同じ漢字が使われているものをそれぞれ一つ選び、マークしなさい。解答番号は(ア) 12 、(イ) 13 。

(ア) ケイネン

① 諦めるのはソウケイだ
② 船をロープでケイリュウする
③ 上司にケイイを説明する
④ 折り紙をエンケイに切る
⑤ 目上の人にはケイイをもって接する

(イ) サンドウ

① 昨年の売上をもとにサンシュツする
② 地域のイベントへのキョウサンを検討する
③ サンセイウで、森林が枯死する
④ 月に一度の定例会議にサンカする
⑤ リスクを減らすために、投資先をブンサンする

問二 空欄A、Bに入る語句の組み合わせとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 14 。

	A	B
①	自分が好き	うわべの演技をしている
②	自分が好き	自分らしさを出すのが好き
③	自分が嫌い	今のままの自分でいい
④	自分が嫌い	自分らしさを出すのが好き
⑤	自分が好き	今のままの自分でいい

問三 空欄C、Dに入る語句の組み合わせとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 15 。

① C 他人と同じことをすること　D 自分らしさを出すのが好き
② C 他人とは違った自分らしさ　D 他人と同じことをしていると安心だ
③ C うわべの演技をすること　D 友だちは自分のことをわかってくれている
④ C 自分を好きになること　D 自分らしさを強調する
⑤ C 今のままの自分でいること　D 他人と違うことをしたい

問四 空欄Eに入る語句として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 16 。

① 言語化　② ハラスメント　③ ありのまま　④ 自己肯定感　⑤ 空気を読む

問五 傍線部分(1)「こうした状況」とあるが、本文で述べられた状況の例として、**不適当なもの**を一つ選び、マークしなさい。解答番号は 17 。

① 多様な人びとと、多様な仕方で関係することができる状況
② スマートフォンの利用者が増えているという状況
③ 九割以上の若者がSNSを利用しているという状況
④ 九割以上の若者がLINEの登録グループ数が二桁に達しているという状況
⑤ 過半数の若者がひとつのSNSで複数のアカウントを使い分けているという状況

問六 空欄Fに入る文章として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 18 。

① 自分自身の肯定感を上げることになり、友人との信頼関係を強固にする
② 自分とは何かを内省する機会を与えることになり、友人関係を再考する機会を与える
③ 社会の断絶を生むことになり、教室内にばらばらのグループを生み出す
④ 自分自身にとっても自らを見失わせることになり、仲のよい友だちであっても知りえない側面を発生させる
⑤ 自分が誰であるのかが確固としたものとなり、友だちを必要としなくなる傾向をもたらす

問七 傍線部分(2)「波風立てずに」の意味として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 19 。

① 争いを起こさないように
② いとも簡単に
③ 人の失敗につけこんで
④ 心の準備をして
⑤ 面倒な事態を引き起こして

問八 本文中に二つある空欄Gに共通して入る語句として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 20 。

① 主観的　② 根本的　③ 客観的　④ 潜在的　⑤ 抑圧的

問九 空欄H、Iに入る語句の組み合わせとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 21 。

① H だが　I さらに
② H また　I しかし
③ H つまり　I それゆえ
④ H ただし　I そして
⑤ H ところが　I あるいは

問十 本文の内容から言えることとして、**不適当なもの**を**二つ選び**、マークしなさい。解答番号は 22 （解答欄一行に二つマークすること）。

① 一見もっともらしく思われている通説を鵜呑(うの)みにしてしまうと、社会の実態を見誤る危険がある
② うわべだけの演技をしているという感覚が最近の若者に少なくなっていることには、SNSの普及が関係している
③ 「最近の若者は自己肯定感が下がっている」ということはアンケートの結果からも裏付けることができる
④ アンケートの結果は、ひとつの項目だけではなく、他の項目との関係を合わせて見たほうがよい
⑤ 老若男女問わず、最近の日本では、周囲の意見に合わせたほうがよいという感覚が強まっている

この頁は白紙です

以降は選択問題です。志望学部、学科により選択できない問題がありますので表紙の【表】の指示に従っていずれか一つを選択し解答してください。
問題冊子の解答番号と解答用紙の番号を間違えないように注意してください。
選択問題を二つ以上解答した場合、得点にはなりませんので十分注意してください。

三ア　次の文章は、幽体（魂）が身体から離れて自分の身体を見るような感覚になる幽体離脱という現象に関することを論じたものである。この文章を読み、後の問に答えなさい。

二〇〇七年の夏、権威ある国際科学誌「サイエンス」に、なんと(1)幽体離脱を体験する実験の論文が掲載された。原文ではアウト・オブ・ボディ体験といい、幽体や霊体といった、オカルトめいた言葉や概念は登場しない。しかし、問題にしている現象はまさしく幽体離脱である。自分の身体感覚が、この自分の身体ではなく、どこか離れた場所、たとえば「そこ」にあるという感覚、この身体感覚が知覚されるという。

論文の内容はこうだ。ヘッドマウントディスプレイという眼鏡型のディスプレイをかける。これは右目と左目それぞれに異なる画像を映せるため、左右の視差を利用して立体視が可能である。映される映像は、リアルタイムでの被験者自身の後ろ姿だ。つまり二台のカメラが自分を背後から撮影している。ここで背中を棒で触られるなどする。まさにいま見ている背中が触れられるタイミングで、自分の背中が触れられている。被験者はそう感じる。うまくすれば、見ている後ろ向きのその姿にこそ、自分が感じられる。「ここにある」わたしの身体が、そこにあると知覚される、というわけだ。幽体離脱という感覚は、この延長線上にある。そういっても、さほど無理な話ではないだろう。

私の研究室では、実際に論文の装置と同じものを用意し、同じ実験をしてみた。頭からコートをかぶって密閉感や閉塞感を強調し、私は自分のタイミングで体を揺らし、学生に手や棒で背中に触れてもらい、自らの背後の映像を眺めてみた。私の勝手なタイミングで揺れる「この」身体、まったく規則を見出せない触れ方で感じる背中の「この」感触が、確かに目の前のそこにあって、わたしがそこにいると知覚されてもよさそうなものだった。しかし、(2)結果は期待したほど興味深いものではなく、自分とは無関係な何かを、傍観者的に覗き見ているという感覚しか浮かばなかった。この実験環境は、見られる対象としてのわたしの在り方にのみ技巧を凝らしている。対象としての「ここ」にいるわたしを、目の前の「そこ」で知覚するという仕掛けが、実験環境のすべてだ。逆に、知覚する主体としてのわたし、については、何ら際立った仕掛けがない。知覚するわたしは、この身体を持った、世界

の中の特定の場所を占めるような個体である。[3]この限定的状況から観察者である「わたし」が抜け出せるような設定は、ここには一切用意されていない。

おそらく、幽体離脱感には、対象としての「わたし」以上に、観察する主体として振る舞う「わたし」の変化が重要なのだろう。わたしが個物ではなく、むしろ世界＝わたしであるかのような感覚、対象と観察者の分離を無効にするような、ある種、超越的な「わたし」が必要なのだろう。そういった超越的感覚によって、対象であるわたしを世界の一部としてホウガン[ア]し、かつ知覚するような、新たな知覚様式が現れ、その限りで浮遊感や離脱感が生じるのかもしれない。子供のころ、風邪をひいて熱に浮かされると、自分の顔や唇や身体が、際限なく大きく膨れ上がり、世界の中に自分がいるのか、自分の中に世界があるのか、判然としなくなる経験がよくあったが、そういった主体の膨張＝世界、という感覚と、幽体離脱感は、密接に結びついているだろうと考えられる。

我々は、ある程度日常的に、幽体離脱に近い感覚を経験しているだろうと思われる。私は寝相が悪く、まれに頭と足の向きが完全に逆になる。通常、私より先に目覚める家人は、起床とともに私の頭の先にあるテレビのスイッチをいれる。寝ぼけた私にとって、頭のほうから聞こえてくるテレビの音は、目覚まし代わりというわけだ。頭と足が逆転しているとどうなるか。普段とは逆に、足元のほうからテレビの音が聞こえてくることになる。このとき、まだ覚醒していない私は、自分の姿勢が逆転していることにまったく考えが及ばない。それどころか、自分の姿勢は普段のままに、足元からの音を解釈しようとする。その結果、「テレビに[4]頭を向けた私を、足元で感じるわたし」が知覚され、普段どおりの姿勢の私を超越的に包みこみ、知覚するような、そういった感覚が微(かす)かに感じられるのである。この感覚は、幽体離脱感といわれるものにかなり近いだろう。すなわち、幽体離脱とは、「わたし」の際限のない膨張感、なのではあるまいか。

わたしの膨張感が幽体離脱なら、逆に収縮感覚はなんだろう。それはおそらく、[5]金縛りという現象だ。金縛りはしばしば、意識は覚醒しているが、身体は覚醒していない状況と理解される。まさに「わたし」がこの身体をもてあまし、扱いきれず、手や足を動かそうと思っても、一切動かせない。それは、この身体と等身大であるはずの「わたし」が、過剰に収縮し、わたしにとって大

き過ぎる身体を動かせない、という感覚と解釈できる。膨張・収縮の対において、幽体離脱感・金縛り感は対を成す。

幽体離脱の感覚と、寝ぼけて得られる身体感覚は、そう遠いものではない。我々は、想像力の世界、思惟（しい）の世界にあって、考える対象となる自分や、これを操作する超越的なわたしを意識することができる。しかし、このような、意識的に操作する概念と、身体との間には圧倒的な違いがあり、前者は想像され創られるもので、後者は現前しその存在に疑いのないものと思いがちだ。想像力で想定されるわたしは、(6)恣意的に構想可能で自由に変化するが、実在するわたしの身体は変化のしようがない。両者の間にこのような決定的な乖離（かいり）を見出す限り、膨張する身体や収縮する身体は理解しがたい現象となる。あなたが、幽体離脱を体験したとしよう。膨張し、身体との整合性がとれない「わたし」を現象として認識したにも拘（かかわ）らず、あなたは厳然と存在し続ける「わたし」という同一性・確実性」を擁護しようとする、としよう。このときあなたは、どう対処するだろうか。「わたし」の同一性は、もはや身体で担保されない。それでも認識の基底を成す「わたし」の確実性を擁護したいなら、(7)「わたし」を霊魂とでも呼ばれるものに回収するしかない。

逆に、意識されるわたし同様に、身体を含む、この私と世界との関係性として存在する「わたし」もまた、予（あらかじ）め確実なものではなく、変化可能であることを認めていい、もしくは、認めるしかないのではないか。膨張し世界と融合してしまう「わたし」や、収縮し純粋に抽象的な概念となる「わたし」も認めるなら、霊魂や幽体といったわたしの同一性を回収する装置は、もはや必要とされない。ただし、「わたし」の確実性、認識の基底に存在するような、疑いのない「わたし」は、同時に、極めて頼りない、(8)脆（ぜい）弱（じゃく）なものとなる。ここにあるのは、(イ)カッコつきの認識の基底であり、ある場合には身体に担保されながら、その実、自由に膨張し、収縮してしまう「わたし」である。

（郡司ペギオ幸夫『時間の正体』問題作成上、一部を改変した）

問一　傍線部分(ア)、(イ)と同じ漢字が使われているものをそれぞれ一つ選び、マークしなさい。解答番号は(ア) 51 、(イ) 52 。

(ア)　ホウガン

① 有志がイチガンとなって取り組む
② おヒガンを過ぎたら風も暖かくなる
③ ガンケンで疲れ知らずな体が欲しい
④ 祖母の話はガンチクに富んでいる
⑤ 世間からハクガンシされても構わない

(イ)　カッコ

① 要点をガイカツして述べる
② 細かな説明はカツアイする
③ 拍手カッサイを受ける
④ 会議のエンカツな進行を心がける
⑤ カンカツ外の厄介事に巻き込まれる

問二　傍線部分(1)「幽体離脱を体験する実験」について述べたものとして、適当なものを**二つ選び**、マークしなさい。解答番号は 53 （解答欄一行に二つマークすること）。

① 実験結果は本文の筆者による成果として広く世界に向けて発信された
② 実験の目的は幽体とは何かについて科学的な視点から検討することであった
③ 離れた場所にあるはずの自分の身体を「ここにある」と知覚する現象が見られた
④ 実験では自分の姿を立体的に見ることができる装置を被験者が身につけた
⑤ 被験者は背後から触られるのと同時にその様子を背後から撮った映像を見た

問三　傍線部分(2)「結果は期待したほど興味深いものではなく」とあるが、それはどのようなことか。その説明として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 54 。

① 知覚対象としての自分に技巧が凝らされていたため、知覚対象が「そこ」にあるような気持ちにはなったが、それは予測された通りの結果であって新しい発見は得られなかったということ

② 知覚する主体としての自分は特別な装置を身につけていたが、知覚対象としての自分には技巧が凝らされていなかったため、知覚対象が自分の身体であるようには感じられなかったということ

③ 知覚対象としての自分は「ここ」にいるものと感じられたが、知覚する主体としての自分は「そこ」にいたままなので、知覚の変化につながるような仕掛けは生じなかったということ

④ 知覚する主体としての自分に特段の変化がないため、知覚対象が自分の身体だという実感が湧かず、知覚する主体としての自分が自分の身体から遊離したような感覚は持てなかったということ

⑤ 知覚対象としての自分が「そこ」にいるような気分にはなったが、知覚する主体としての自分が他人であるような感覚になり、知覚の在り方に想定外の混乱が起こってしまったということ

問四　傍線部分(3)「この限定的状況から観察者である「わたし」が抜け出せるような設定」として、ここではどのような設定が考えられているか。最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 55 。

① 観察者である「わたし」が超越的な視点を手に入れ、自分の身体と分離不可能な関係を持つ設定

② 観察者である「わたし」が世界の一部を占める個体として特定の位置から自分の身体を知覚する設定

③ 観察者である「わたし」が個物から変化して身体の一部になり、浮遊感や離脱感が生じる設定

④ 観察者である「わたし」が知覚対象である自分の身体を膨張したものとして捉えてしまう設定

⑤ 観察者である「わたし」が世界と融合したかのような対象としての自分を超越的に知覚する設定

問五 傍線部分(4)「テレビに頭を向けた私を、足元で感じるわたし」とあるが、このときの「わたし」にはどのような知覚が生じているか。その説明として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 56 。

① 現実の身体はテレビに足を向けており、「わたし」も身体がテレビに足を向けていると捉えているが、それを感じる「わたし」はなぜかその足元にいるという知覚が生じている

② 現実の身体はテレビに足を向けているが、「わたし」は身体がテレビに頭を向けていると捉えているため、それを感じる「わたし」が身体から抜け出たような知覚が生じている

③ 現実の身体はテレビに頭を向けており、「わたし」も身体がテレビに頭を向けていると捉えているが、それを感じる「わたし」はなぜかその足元にいるという知覚が生じている

④ 現実の身体はテレビに頭を向けているが、「わたし」は身体がテレビに足を向けていると捉えているため、それを感じる「わたし」が身体から抜け出たような知覚が生じている

問六 傍線部分(5)「金縛り」と幽体離脱感の共通点について述べたものとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 57 。

① 知覚対象である自分の身体が、自分の意志では動かせなくなってしまうという点で共通している

② 知覚対象である自分の身体が、際限なく膨張するように感じられてしまうという点で共通している

③ 知覚する主体としての自分が、意識の覚醒していない状況を経験しているという点で共通している

④ 知覚する主体としての自分が、身体を自分のものと思えなくなるほど収縮するという点で共通している

⑤ 知覚する主体としての自分が、自分の身体と等身大でなくなってしまうという点で共通している

問七 傍線部分(6)「恣意的に」の意味として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 58 。

① 発想力豊かに　② 意味深長に　③ 思い通りに　④ 臨機応変に　⑤ 型破りに

問八 傍線部分(7)「「わたし」を霊魂とでも呼ばれるものに回収する」とは、「わたし」がどのようになったと考えることか。その説明として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 59 。

① 霊魂のようなものの世界に旅立ってしまったと考えること
② 霊魂のようなものの膨張した状態から解放されたと考えること
③ 霊魂のようなものによって確実性を取り戻したと考えること
④ 霊魂のようなものになって認識の基底を変化させたと考えること
⑤ 霊魂のようなものとして身体から分離していると考えること

問九 傍線部分(8)「脆弱なものとなる」とあるが、その理由を説明したものとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 60 。

① 「わたし」を霊魂や幽体と捉えることで、身体を担保とする認識の基底が不確実なものになるから
② 「わたし」と世界の関係が変化することで、身体の実在を担保する「わたし」の知覚も変容するから
③ 実在する身体が膨張や収縮をすることで、「わたし」の同一性に疑いが生じることになるから
④ 霊魂や幽体を担保にすることで、「わたし」を客観的に把握する方法がなくなってしまうから
⑤ 自分が膨張や収縮をするのを認めることで、「わたし」の確実性を担保するものが揺らいでしまうから

この頁は白紙です

三イ　次の文章は『平中物語』の一節で、平貞文（平中）が、市場で目にした女を恋しく思い、その気持ちを打ち明けて、女と共に過ごしたあとの場面である。これを読み、後の問に答えなさい。

そののち、文もおこせず(ア)、またの夜も来ず(イ)。かかれば、使人など、わたると聞きて、「人にしもありありて。かう音もせず(1)、みづからも来ず、人をも奉れたまはぬこと」などいふ。心地に思ふことなれば、くやしと思ひながら、とかく思ひみだるるに、四、五日になりぬ。女、ものも食はで、音をのみ泣く。ある人々、「なほ、かうな思ほしそ(2)。人に知られたまはで、異ごとをもしたまへ(ウ)。さておはすべき御身かは(エ)」などいへば、ものもいはで籠りゐて、いと長き髪をかき撫でて、尼に挟みつ。使ふ人々嘆けど、かひなし(3)。

来ざりけるやうは、来て、つとめて(4)、人やらむとしけれど、官の督(注3)、にはかにものへいますとて(5)、率ていましぬ。さらに帰したまはず、からうして帰る道に、亭子の院の召使(注4)来て、やがてまゐる。大堰(注5)におはします御供に仕うまつる。そこにて二、三日は酔ひまどひて、もの覚えず。夜ふけて帰りたまふに、行かむとあれば(7)、方ふたがりたれば(注6)、みな人々つづきて、たがへにいぬ(注7)。この女いかに思ふらむとて、夜さり、心もとなければ、文やらむとて書くほどに、人うちたたく。「たれぞ」といへば、「尉の君(注8)に、もの聞えむ」といふを、さしのぞきて見れば、この女(注9)の人なり。「文」とてさしいでたるを見るに、切髪を包みたり。あやしくて、文を見れば、

A　天の川空なるものと聞きしかどわが目のまへの涙なりけり

尼になるべしと思ふに、目くれぬ(8)。

（『平中物語』）

（注1）四、五日になりぬ　当時、男性が女性と結婚する時には、初めて女性と会った日の翌朝早くに手紙を送り、三日間は必ず通うのが作法であった

（注2）尼に挟みつ　髪を肩の辺りで切りそろえて尼になってしまった

（注3）官の督　平貞文が仕えている役所の長官

（注4）亭子の院　宇多法皇（八六七～九三一、在位八八七～八九七）。法皇は仏門に入った上皇

（注5）大堰　大堰川の流域。大堰川は現在の京都府嵐山付近を流れる川。貴族が船を浮かべて宴遊した

（注6）方ふたがり　陰陽道で、行こうとする方角に忌むことがあり、行くことができないこと。その際には、他の方角で一泊などしてから目的地に行く「方たがへ」がしばしば行われた

（注7）たがへ　方たがへ

（注8）尉の君　平貞文のこと。「尉」は律令官制の三等官

（注9）女の人　女の召使い

問一　二重傍線部分(ア)「おこせ」、(イ)「来」の動詞の活用の種類として、最も適当なものをそれぞれ一つ選び、マークしなさい。解答番号は(ア) 76 、(イ) 77 。

(ア)
① ア行四段活用　② サ行四段活用　③ ア行下二段活用　④ サ行下二段活用　⑤ サ行変格活用

(イ)
① カ行上一段活用　② カ行上二段活用　③ カ行変格活用　④ ラ行上一段活用　⑤ ラ行変格活用

問二　二重傍線部分(ウ)「たまへ」、(エ)「おはす」の活用形として、最も適当なものをそれぞれ一つ選び、マークしなさい。ただし、同じ番号を複数回解答してもよい。解答番号は(ウ) 78 、(エ) 79 。

① 未然形　② 連用形　③ 終止形　④ 連体形　⑤ 已然形　⑥ 命令形

問三 傍線部分(1)「音もせず、みづからも来ず、人をも奉れたまはぬこと」とは、具体的にどういうことを言っているのか。最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 80 。

① 女が、何も言わず、外にも出かけず、誰にも会おうとしないこと
② 女が、弁解もせず、自分の本音も見せず、誰にも頼ろうとしないこと
③ 貞文が、女に贈り物もせず、挨拶にも来ず、親に紹介しようともしないこと
④ 貞文が、女に手紙もよこさず、本人も訪れず、使いの者も差し向けてこないこと
⑤ 女の召使いが、文句も言わず、よそにも行かず、他の人のせいにもしないこと

問四 傍線部分(2)「かうな思ほしそ」の解釈として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 81 。

① みな心配していますよ
② 私はそうは思いません
③ どう思っているのですか
④ こんなにお悩みなさいますな
⑤ このように考えてほしいです

問五 傍線部分(3)「かひなし」、(4)「つとめて」、(5)「にはかに」の本文中の意味として、最も適当なものをそれぞれ一つ選び、マークしなさい。解答番号は(3) 82 、(4) 83 、(5) 84 。

(3) ① ふがいない ② 認めない ③ 仕方がない ④ 落ち着かない ⑤ 覚えていない
(4) ① 必死に ② 仕事をして ③ 当然 ④ たまたま ⑤ 翌朝
(5) ① ひそかに ② 急に ③ 少し ④ 順調に ⑤ しばしば

問六　傍線部分(6)「さらに帰したまはず、からうして帰る道に、亭子の院の召使来て、やがてまゐる」の解釈として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 85 。

① 長官が貞文の家からなかなかお帰りにならず、長官がそろそろ帰るという時に、亭子の院の使いが来て、貞文は使いを迎え入れる

② 長官が貞文をなかなか帰してくださらず、貞文がようやく帰る途中で、亭子の院の使いが来て、貞文はそのまま院のもとに参上する

③ 亭子の院が貞文の家からなかなかお帰りにならず、やっとお帰りになるというので、亭子の院の使いが来て、院をすぐにお連れになる

④ 亭子の院が長官を帰してくださらないので、貞文が一人で帰ろうとすると、亭子の院の使いが来て、貞文も院のもとに留め置かれる

⑤ 貞文は長官とともに亭子の院から帰れず、帰る方法を探していたが、やっと使いが来てお許しが出たので、すぐに帰宅する

問七　傍線部分(7)「行かむ」、(8)「目くれぬ」の動作主は誰か。最も適当なものをそれぞれ一つ選び、マークしなさい。ただし、同じ番号を複数回解答してもよい。解答番号は(7) 86 、(8) 87 。

① 平貞文　② 女　③ 女の召使い　④ 官の督　⑤ 宇多法皇

問八 本文中の和歌Aについて述べたものとして、**適当でないもの**を一つ選び、マークしなさい。解答番号は 88 。

① この和歌は貞文のもとに女の髪とともに届けられた
② 「天の川」の「天」には「尼」の意味が詠み込まれている
③ 女はまさか自分が尼になるとは思っていなかったと述べている
④ この和歌には激しく涙を流すほどの女の悲しみが表現されている
⑤ 和歌を見た貞文は、女が罪をつぐなうため当然尼になるべきだと思った

問九 本文の内容に合致するものとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 89 。

① 貞文は、女の召使いが自分を非難しているのを知ってくやしいと思った
② 貞文は、女からの返事がないので、食欲もわかず泣いてばかりいた
③ 事情を知った女の召使いたちは、貞文以外の男との縁談を考えるよう女に勧めた
④ 貞文はしばらく女のもとを訪れていなかったが、まったく心配していなかった
⑤ 夜に手紙を送ると不吉であるため、貞文は夜明けを待って手紙を送ろうとした

この頁は白紙です

三ウ　次の文章を読み、後の問に答えなさい（設問の関係上、訓点を省いた部分がある）。

柳(注1)子以レ罪貶二永州(注2)一。(1)有自京師来者、既見、曰、「余聞二子之坐レ事
斥逐、(2)余適将唁子。今余視二子之貌一浩(注3)浩然也。能是達矣、
余無二以唁一矣、敢更以為レ賀。」柳子曰、「子誠以レ貌乎則可也。
然(3)吾豈若是而無志者耶。姑以二戚(注4)戚一為レ無レ益二乎道一、故若是
而已耳。吾之罪大、会主上方以レ寛理人、用和二天下一、故吾得
在レ此。凡吾之貶斥幸矣。而又戚戚焉何哉。夫為二天子一尚(注6)書
郎、謀画無レ所レ陳、而(4)群比以為レ名、蒙レ恥遇レ僇、以待二不測之
誅一。苟人爾、有下不二汗(注7)栗危厲偲偲然一者上哉。吾(5)嘗静処以思、独
行以求。自以上不レ得三自列二於聖朝一、下無以奉二宗祀一、近中丘墓上、
徒欲二苟生幸存一、庶幾(注9)似続之不レ廃。(6)是以儻(注10)蕩其心一、倡(注11)
佯其形一。茫(注12)乎若二昇レ高以望一、潰(注13)乎若二乗レ海而無レ所レ往。故(7)其容
貌如レ是。子誠以二浩浩一而賀レ我、其孰承レ之乎。嘻笑之怒、甚二乎

裂レ眥、長歌之哀、過ニ乎慟哭一。庸拒知ニ吾之浩浩非ニ戚戚之尤(注14)者一乎。(8)子休矣。」

（『柳宗元集』）

（注1）柳子　作者柳宗元のこと

（注2）永州　地名。現在の湖南省南西部の地域。柳宗元が流謫された地

（注3）浩浩然　ゆったりとしている様子。「然」は状態を表す接尾語

（注4）戚戚　憂え恐れる様子

（注5）戚戚焉　「戚戚」と同じ。「焉」は状態を表す接尾語

（注6）尚書郎　中央政府の行政をつかさどる機関（尚書）の役人で、皇帝の側で政務を執り行う

（注7）汗栗危厲　冷や汗を流してビクビクしていること

（注8）偲偲然　お互いに励まし合うさま

（注9）似続　先祖の後を継ぐ者

（注10）儻蕩　気ままで物にとらわれないさま

（注11）倡佯　自由気ままにする

（注12）茫乎　ぼんやりするさま

（注13）潰乎　まとまりがないさま

（注14）尤　はなはだしいこと

問一　傍線部分(1)「有自京師来者」に付ける返り点として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 101 。

① 有下自二京師一来者上
② 有二自二京師一来者一
③ 有レ自二京師一来者
④ 有下自二京師来一者上
⑤ 有三自二京師来者一

問二　傍線部分(2)「余適将唁子」の書き下し文として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 102 。

① 余適(ゆ)きて子を将(もち)ゐて唁(とむら)ふ
② 余適きて子を唁ふを将(もつ)てす
③ 余適きて将に子を唁ふべし
④ 余適きて将に子を唁はんとす
⑤ 余適きて将に子を唁ふがごとし

問三　傍線部分(3)「吾豈若是而無志者耶」の意味として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 103 。

① 私はどうしてこの志を持っていないということがありましょうか
② 私はどうしてこのような志がないままでいることができましょうか
③ 私はどうして若い頃からこの志を持っていないということがありましょうか
④ 私はこのような顔つきをしていることで、どうしても志を持つことができないのです
⑤ 私はこのような顔つきをしているからといって、どうして志がないことがありましょうか

問四 傍線部分(4)「群比以為名」の意味として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 104 。

① 私に敵対する人たちが徒党を組むことによって
② 私に味方する人たちが名指ししてかばってくれたので
③ 私に敵対する人たちが言いがかりをつけたことによって
④ 私に敵対する人たちによって名目上の仕事だと思われて
⑤ 私に味方する人たちが名誉ある地方官を与えてくれたので

問五 傍線部分(5)「嘗」、(6)「是以」の読みとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は(5) 105 、(6) 106 。

(5) ① つねに ② かつて ③ やがて ④ なめて ⑤ こころみに
(6) ① ゆえん ② いわゆる ③ このゆえに ④ ここをもって ⑤ これをもって

問六 傍線部分(7)「其容貌如是」とあるが、どのような理由でどのような容貌をしているのか。最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 107 。

① 地方に左遷されたものの皇帝陛下は自分の無罪を分かってくれているので、安心して気楽な容貌をしている
② 遠い地方に来て先祖をお祀(まつ)りすることもできなくなってしまったため、悲しみに暮れた厳しい容貌をしている
③ 都から遠く離れた地に左遷された上に自分にいつ危害が及ぶか分からないので、不安に満ちた厳しい容貌をしている
④ 左遷されたものの美しい自然の豊かな地方でのんびり暮らすことができるので、ゆったりと落ち着いた容貌をしている
⑤ 先祖を祀る後継ぎを絶やさないために穏やかな心持ちでいようとしているから、ゆったりと落ち着いた容貌をしている

問七 傍線部分(8)「子休矣」とあるが、何をやめてほしいのか。最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 108 。

① 柳宗元の地方での勤めをあざ笑うこと
② 柳宗元に対して祝いの言葉を述べること
③ 柳宗元に対してなぐさめの言葉を述べること
④ 柳宗元に対して都の状況を詳しく報告すること
⑤ 柳宗元の地方での苦労の多い勤めをねぎらうこと

問八 本文によれば、作者柳宗元は永州に左遷されたことをどのように思っているか。最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 109 。

① 美しい自然の豊かな地方にやってきたことで、ゆったりと穏やかな思いをしている
② 自分自身の行いによって罪を得て左遷されたのであるから、諦めて絶望の思いをしている
③ 都を離れ、中央政府の仕事からはずされて、怒り悲しみ、たいへんつらい思いをしている
④ 何もすることのない地方の役人では自分の力を発揮できず、怒って悲しい思いをしている
⑤ 都を離れ、中央政府の仕事の煩わしさから逃れて、穏やかにのんびりとした思いをしている